

はじめての実習に対する不安感と実際 (1) ～不安要素の特定を中心に～

佐野 友恵*¹ 廣橋 容子*²

The Relationship between Anxiety and Later Impression in First Kindergarten Teaching Experience (1) ～ Determining the factors in anxiety ～

Tomoe Sano *¹ Yoko Hirohashi *²

Abstract

During their first kindergarten work experience almost all students aiming to become kindergarten teachers experience anxiety. This study aims to research the relationship between the anxieties before and the impression after the teaching practice. The results were:

1) Many students felt anxiety, but worked eagerly and felt the practice was successful.

2) They had had fewer problems than they had expected, except for report writing, exercises and reading picture books.

3) Students who enjoyed the experience did not perceive problems in their relationships with kindergarten staff or with greetings. Nor did they become mentally fatigued,

4) There were students who perceived many more difficulties in their relationships with kindergarten staff and pupils, writing reports and making crafts compared with their expectations. They also suffered from physical and mental fatigue and had problems maintaining their health. This suggests the need for more study on report writing and communication skills and provision of psychological support for the students.

キーワード

はじめての実習、不安要素、実習後の感想

* 1 さの ともえ：大阪国際大学短期大学部准教授 (2010.10.11受理)

* 2 ひろはし ようこ：名寄市立大学人間福祉学部准教授

1. はじめに

保育者の養成課程において、学外実習（以下、実習と記す）は特に重要な意味を持つ科目である。保育が子どもという生きた存在を対象とする分野であるという特性に鑑み、養成課程での学びが机上の空論とならないために必須のものである。また保育者の資質の向上には、学内で習得した理論や技術を、現場での実践と統合して理解することが求められる。実習を通じて具体的な子どもの姿や専門職としての保育者像に接することが実習後の学習への動機づけとなるだけでなく、卒業後の進路の志望を確立することにも役立つと考えられる。その意味で実習の成否は、学生の教育課程において大きな位置を占めるといえよう。

とくに学生が経験する初回の実習は、養成課程における教育内容の基盤を形成するためのものであり、導入部分として重要である。はじめての実習が順調であれば、学生のその後の学内での学習に対する意欲が高まり、その後の実習に対する意識も積極的なものとなる。しかし、はじめて経験する実習では、学生の不安感や緊張感が強かったり、不慣れであるために円滑に進まなかったり、学生の抱いていたイメージとの乖離があったり、自己解決の方策を見出せなかったりするなど、様々な問題が発生しやすく、またストレスも生じやすいと考えられる。

先行研究では、実習に関する学生の不安に着目したものが多く見られる^{1) 2) 3) 4)}。はじめての実習では100%の学生が不安感を抱いているという報告もなされている⁵⁾。また、はじめての実習に関しては、実習後にのみ焦点をあて、学生が援助についてどのように理解したかを調査した研究もある⁶⁾。

本研究では、学生がはじめて経験する実習である幼稚園教育実習の、前と後に調査を実施した。質問紙には、実習に関する要素として「人間関係」「実習生としてのマナー」「実習内容」「評価」「自己意識」「実習中の生活・健康」の6つのカテゴリーを置き、それぞれに下位の質問項目を設定した。そして得られた調査結果について、実習前の不安感と実習後に感じた大変さの程度を、質問項目ごとに検討して考察を加えた。また、各個人の各項目における実習前の不安感と実習後の感想を比較し、その変化量に着目して分析した。さらに、実習前の不安感と実習後の感想との変化量と、「保育者志向の変化」「実習に対する感想」の相関を検討した。この結果は、実習の事前・事後指導や、実習中の学生への支援等に活用できると考えている。

2. 調査概要

本研究の実施にあたり、下記の通り、実習前後に質問紙調査を実施した。

対象：2010年度 本学幼児保育学科 保育コース

1年次生のうち幼稚園教育実習履修者126名

有効回答数 108 有効回答率 85.7%

時期：2010年7月（実習前）、および9月（実習後）

（質問紙は実習前の調査と実習後の調査を一冊にまとめたものを使用）

回答：無記名式で実施。大半の質問項目については、5件法で回答を求めた。

*調査終了後、上記の調査対象学生のうち５名との座談会をおこなった。

3. 調査対象学生の状況

学生の実習に対する不安感とその変化に関する分析に入る前段階として、今回の調査対象となった本学幼児保育学科保育コース１年次生のうち幼稚園教育実習履修者の進路希望および実習前の状況を明らかにする。

(1) 保育者志向

まず、本学科への入学理由としては「保育者（幼稚園教諭や保育士）になりたかったから」78.7%、「保育者になるかどうかは決めていなかったが、保育関係の資格が欲しかったから」14.8%、「何でも良いので資格（保育系以外の資格でも構わなかった）がとりたかった」2.8%、「学科は関係なく、とりあえず大学・短大に進学したかったから」1.9%、「自分は幼児保育学科へ進学したくなかったが親や高校の教員にすすめられたから」0.9%、「特に理由はなかった（なんとなく）」0.9%、であり、大半の者が保育者を目指し、保育者に関係する免許・資格の取得を目的として入学していたことがわかる。

本学入学以前に、職業体験やボランティア活動等を通して、保育現場の事前体験を行っている者も69.4%(75人)にのぼる。そのうち、事前体験の日数が１日だけの者はわずか６名、５日以上の方が40名と半数以上をしめている。

幼稚園教諭免許・保育士資格という免許・資格が取得可能な学科・コースであるだけに、入学時点での専門職志向も強い。４月の入学時点で81.5%の学生が「保育者になりたいと思っていた」（とてもそう思う＋ややそう思う）と回答している。しかしながら、１年次前期の授業を通して保育に関する学習をし、はじめての実習がいよいよ近づいてくる段階においては「保育者になりたいと思っている」（とてもそう思う＋ややそう思う）と回答した学生は73.2%に減る。

(2) １年次前期の受講状況・実習関係に向けた取り組み

調査対象学生の１年次前期の授業の受講状況を見ていくならば、「前期の授業に真剣に取り組みましたか」という設問については、とてもそう思う41.7%、ややそう思う38.9%、ふつう16.7%、あまりそう思わない2.8%、全くそう思わない0%という回答状況にある。また、教育実習に参加するために必須としている科目である「教育実習（事前・事後の指導）に真剣に取り組みましたか」との設問に対して、とてもそう思う47.2%、ややそう思う43.5%、ふつう16.7%、あまりそう思わない、まったくそう思わないという学生は0%であったことから、前期の授業については概ね真剣に取り組んでいたことがわかる。なお、前期の出欠状況についての質問において、殆ど欠席していない73.1%、やや欠席した24.1%、欠席が多かった2.8%であった。

同様に１年次生前期の実習に関する手続きの状況を見ていくならば、本来すべて期日内に行わなければならない幼稚園実習に必要な書類提出等の手続きについては、全て期日までにおこなった84.3%、若干、期日までにおこなえなかったものがある13.9%、大半が期日までにおこなえなかった1.9%、という回答状況であった。

(3) 実習園との関係

本学幼児保育学科では、一部の幼稚園（公立園、一部の私立園）を除いては、学生が実習園を探し、実習の依頼をおこなうことにしている⁷⁾。これは学校が実習先を決めることによる弊害（全学生を均一に通勤しやすい実習園に配当できるわけではないことや、学校に決められた実習園に行くことで、学生の実習に対する意識、意欲が低下すること等）や、入学後の早い時期から実習の依頼に係る諸活動（正式な書類の書き方、電話のかけ方、幼稚園に訪問する際の身だしなみ、マナー等）をおこなうことで社会人としての基礎力を身に着ける機会を設けられること、私立の幼稚園での実習の場合、実習園から就職の内定が出るケースが増えていること等の状況を鑑み、より就職につながりやすい条件の実習園を学生自身が選ぶことのメリットを考慮したものである。

学生が自ら実習園を選択することにより、学生と実習園との間に何らかの関係があるケースが半数近くにのぼる。実習園が自分の出身幼稚園40.7%、親・兄弟姉妹・親戚などが勤務していたり通園していた幼稚園12%、職場体験などでお世話になった幼稚園3.7%、無関係43.5%となっている。

(4) 実習前調査時点における「はじめての実習」に対する意識

「実習は楽しみですか」「実習は不安ですか」「幼稚園教育実習に真剣に取り組みたいと思いますか」「実習がうまくいくと思いますか」という設問に対する回答は表1の通りである。実習に対する期待感や真剣に取り組みたいという意欲はあるものの、はじめての実習に対する不安が大きいことがわかる。

表1. 実習に対する意識

	楽しみ	不安	真剣に取り組みたい	うまくいく
とてもそう思う	18.50%	74.10%	83.30%	5.60%
ややそう思う	43.50%	19.40%	13.90%	26.90%
ふつう	23.10%	3.70%	2.80%	39.80%
あまりそう思わない	11.10%	0.90%	0.00%	22.20%
まったくそう思わない	3.70%	1.90%	0.00%	5.60%

N=108

4. 「はじめての実習」における不安要素と、実習後の感想

次に、実習前の学生が具体的にどのような要素に不安感を持っていたのかを特定する。そして、その項目について、実習後にどの程度大変だったと感じていたのかを明らかにする。

本調査では、実習に関係する要素として「人間関係」「実習生としてのマナー」「実習内容」「評価」「自己意識」「実習中の生活・健康」を6つに分類した上で、更に具体的な質問項目を設定し、全項目について、実習前には「不安に思うかどうか」、実習後には「大変だったかどうか」を質問している。

(1) 人間関係

人間関係については、「子どもとの関係」「実習園の職員との関係」「実習園の保護者と

はじめての実習に対する不安感と実際（１）～不安要素の特定を中心に～

の関係」「実習生同士の関係」の４項目の質問を設けた。

実習前の不安が特に大きいのは、職員との関係、保護者との関係である。しかし、実習後に大変だったという意識はそれほど高くない。子どもとの関係についても、同様の傾向にある。一方、実習生同士の関係は元々それほど不安感も強くなく、実習後の感想においても大変ではないという回答傾向になった。

表2. 「人間関係」に関する不安と実習後の感想

	実習前		実習後		
子どもとの関係	不安ではない	9.30%	大変ではない	31.50%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	20.40%	あまり大変ではない	33.30%	
	どちらともいえない	21.30%	どちらともいえない	4.60%	
	やや不安	33.30%	やや大変	27.80%	
	とても不安	15.70%	とても大変	2.80%	
職員との関係	不安ではない	1.90%	大変ではない	18.50%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	0.00%	あまり大変ではない	28.70%	
	どちらともいえない	7.40%	どちらともいえない	15.70%	
	やや不安	43.50%	やや大変	18.50%	
	とても不安	47.20%	とても大変	18.50%	
保護者との関係	不安ではない	0.90%	大変ではない	22.40%	実習前 N=107 実習後 N=107
	あまり不安ではない	4.70%	あまり大変ではない	26.20%	
	どちらともいえない	7.50%	どちらともいえない	36.40%	
	やや不安	35.50%	やや大変	9.30%	
	とても不安	51.40%	とても大変	5.60%	
実習生同士の関係	不安ではない	21.30%	大変ではない	61.10%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	31.50%	あまり大変ではない	20.40%	
	どちらともいえない	25.00%	どちらともいえない	10.20%	
	やや不安	14.80%	やや大変	6.50%	
	とても不安	7.40%	とても大変	1.90%	

(2) 実習生としてのマナー

実習生としてのマナーについては、「言葉遣い」「立ち居振る舞い」「身だしなみ（髪型・服装）」「遅刻をしないかどうか」「きちんと挨拶できるかどうか」の５項目の質問を設けた。

実習生に求められる最も基本的事項であるこれらのマナーについては、実習指導においても特に徹底した指導をおこなっている。

しかしながら、「言葉遣い」については、実習生のこれまでの生活の積み重ねによるところが大きく、一朝一夕に改善される性質のものではない。そのため、特に言葉遣いに不安感を持つ学生の比率と、実習後に特に言葉遣いが大変だったと感じる学生の比率に変化は生じない。

一方、身だしなみや挨拶についても、実習生・社会人としてのレベルを求められるため、不安感は大い。しかし、これらの項目については、ある程度、事前の準備や学習により対策を講じることができるためか、実習後の「大変だった」という回答は実習前の不安感に比べて減っている。

表3. 「実習生としてのマナー」に関する不安と実習後の感想

	実習前		実習後		
言葉遣い	不安ではない	8.30%	大変ではない	16.70%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	25.00%	あまり大変ではない	23.10%	
	どちらともいえない	14.80%	どちらともいえない	18.50%	
	やや不安	41.70%	やや大変	27.80%	
	とても不安	10.20%	とても大変	13.90%	
立ち居振る舞い	不安ではない	2.80%	大変ではない	15.70%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	17.60%	あまり大変ではない	18.50%	
	どちらともいえない	21.30%	どちらともいえない	18.50%	
	やや不安	40.70%	やや大変	29.60%	
	とても不安	17.60%	とても大変	17.60%	
身だしなみ	不安ではない	12.00%	大変ではない	30.60%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	33.30%	あまり大変ではない	27.80%	
	どちらともいえない	34.30%	どちらともいえない	20.40%	
	やや不安	17.60%	やや大変	18.50%	
	とても不安	2.80%	とても大変	2.80%	
遅刻	不安ではない	24.10%	大変ではない	39.80%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	25.00%	あまり大変ではない	25.90%	
	どちらともいえない	18.50%	どちらともいえない	11.10%	
	やや不安	17.60%	やや大変	14.80%	
	とても不安	14.80%	とても大変	8.30%	
挨拶	不安ではない	19.40%	大変ではない	40.70%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	28.70%	あまり大変ではない	25.00%	
	どちらともいえない	23.10%	どちらともいえない	19.40%	
	やや不安	20.40%	やや大変	8.30%	
	とても不安	8.30%	とても大変	6.50%	

(3) 実習内容

実習内容については、「子どもと関わること」「子どもと遊ぶこと」「子どもへ指導すること」「子どもを叱ること」「子どもの安全を守ること」「子どもへ言葉掛けをすること」「発達段階を理解すること」「発達段階にあわせた接し方をすること」「実習記録を書くこと」「指導案を書くこと」「ピアノを弾くこと」「制作をすること」「運動をすること」「絵本や紙芝居を読むこと」「手遊びをすること」「幼稚園の意義を理解すること」「保育者の職務を理解すること」の17項目の質問を設けた。

先行研究でも必ずといって良いほど触れられることではあるが、実習記録（日誌）や指導案といった文章を書く作業を伴うことに関しては、学生の苦手意識が非常に強く、不安感や大変さを感じる傾向にある。この点については本調査でも同様の結果であった。また、ピアノを弾くことも不安感が強い項目として挙げられる。事前に練習をして臨める項目ではあるものの、座談会で学生から聞かれた声の中には、ピアノの経験年数が短い学生にとっては、いくら練習しても不安感が消えないこと、練習では弾けていても、いざ子ども達の前で弾くと緊張してしまうといった声も聞かれた。

次に、実習内容の中心となる子どもとのかかわりに関する項目についてみていく。「子どもとかわること」という、単に子どもと接することについては、それほど大変には感

はじめての実習に対する不安感と実際（１）～不安要素の特定を中心に～

じていないようであるが、そこに「安全を守る」こと、「発達段階にあわせた接し方」といった専門的要素が加わると途端に大変だったと感じる割合が増加する。大変だったと感じられるということは、はじめての実習の中で、保育者の仕事が単に子どもと遊ぶことではなく、子どもが心身共に成長できる環境を作り、子どもの健康・安全を守った上で、一人ひとりの発達段階にあわせたかかわりをしている保育者の専門性への気づきがなされていると解釈することもできる。

表4. 「実習内容」に関する不安と実習後の感想（抜粋）

	実習前		実習後		
子どもとの関わり	不安ではない	9.30%	大変ではない	42.60%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	28.70%	あまり大変ではない	23.10%	
	どちらともいえない	23.10%	どちらともいえない	12.00%	
	やや不安	28.70%	やや大変	15.70%	
	とても不安	10.20%	とても大変	6.50%	
安全を守る	不安ではない	1.90%	大変ではない	8.30%	実習前 N=107 実習後 N=108
	あまり不安ではない	8.40%	あまり大変ではない	7.40%	
	どちらともいえない	20.60%	どちらともいえない	20.40%	
	やや不安	39.30%	やや大変	38.90%	
	とても不安	29.90%	とても大変	25.00%	
言葉掛け	不安ではない	6.50%	大変ではない	13.00%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	20.40%	あまり大変ではない	25.90%	
	どちらともいえない	24.10%	どちらともいえない	13.90%	
	やや不安	27.80%	やや大変	38.00%	
	とても不安	21.30%	とても大変	9.30%	
発達にあわせた接し方	不安ではない	0.90%	大変ではない	3.70%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	6.50%	あまり大変ではない	9.30%	
	どちらともいえない	17.60%	どちらともいえない	15.70%	
	やや不安	46.30%	やや大変	50.90%	
	とても不安	28.70%	とても大変	20.40%	
実習記録	不安ではない	0.00%	大変ではない	0.90%	実習前 N=108 実習後 N=108
	あまり不安ではない	3.70%	あまり大変ではない	1.90%	
	どちらともいえない	3.70%	どちらともいえない	0.90%	
	やや不安	19.40%	やや大変	13.00%	
	とても不安	73.10%	とても大変	83.30%	
指導案	不安ではない	0.00%	大変ではない	1.10%	実習前 N=108 実習後 N=89
	あまり不安ではない	2.80%	あまり大変ではない	0.00%	
	どちらともいえない	3.70%	どちらともいえない	23.60%	
	やや不安	15.70%	やや大変	15.70%	
	とても不安	77.80%	とても大変	59.60%	
ピアノ	不安ではない	1.90%	大変ではない	9.90%	実習前 N=108 実習後 N=91
	あまり不安ではない	7.40%	あまり大変ではない	6.60%	
	どちらともいえない	7.40%	どちらともいえない	20.90%	
	やや不安	26.90%	やや大変	16.50%	
	とても不安	56.50%	とても大変	46.20%	

	実習前		実習後		
絵本・紙芝居	不安ではない	10.30%	大変ではない	9.30%	実習前 N=107 実習後 N=107
	あまり不安ではない	28.00%	あまり大変ではない	24.30%	
	どちらともいえない	21.50%	どちらともいえない	19.60%	
	やや不安	31.80%	やや大変	35.50%	
	とても不安	8.40%	とても大変	11.20%	
幼稚園の意義	不安ではない	3.70%	大変ではない	7.50%	実習前 N=107 実習後 N=107
	あまり不安ではない	4.70%	あまり大変ではない	7.50%	
	どちらともいえない	33.60%	どちらともいえない	43.90%	
	やや不安	41.10%	やや大変	23.40%	
	とても不安	16.80%	とても大変	17.80%	
保育者の職務	不安ではない	2.80%	大変ではない	5.60%	実習前 N=107 実習後 N=107
	あまり不安ではない	9.30%	あまり大変ではない	11.20%	
	どちらともいえない	33.60%	どちらともいえない	40.20%	
	やや不安	37.40%	やや大変	20.60%	
	とても不安	16.80%	とても大変	22.40%	

(4) 評価

評価については、「実習園からの評価」「大学からの評価」の2項目の質問を設けた⁸⁾。実習後の調査において、「幼稚園実習に真剣に取り組みましたか」との質問に対して、とてもそう思う82.4%、ややそう思う17.6%、ふつう・あまりそう思わない・全くそう思わないとの回答は0%であった。また、「実習がうまくいったと思いますか」との質問に対しても、とてもそう思う20.8%、ややそう思う49.1%、ふつう19.8%、あまりそう思わない10.4%、全くそう思わない0%であり、実習に対して真剣に取り組む、うまくいったという自覚があるにもかかわらず、実習前・実習後を問わず、評価については不安が大きい傾向にある。

表5. 「評価」に関する不安と実習後の感想

	実習前		実習後		
実習園の評価	不安ではない	0.90%	不安ではない	2.80%	実習前 N=107 実習後 N=106
	あまり不安ではない	0.90%	あまり不安ではない	7.50%	
	どちらともいえない	15.00%	どちらともいえない	23.60%	
	やや不安	31.80%	やや不安	31.10%	
	とても不安	51.40%	とても不安	34.90%	
大学の評価	不安ではない	1.90%	不安ではない	4.70%	実習前 N=107 実習後 N=106
	あまり不安ではない	5.60%	あまり不安ではない	9.40%	
	どちらともいえない	24.30%	どちらともいえない	29.20%	
	やや不安	31.80%	やや不安	31.10%	
	とても不安	36.40%	とても不安	25.50%	

(5) 自己意識

自己意識については、「子どもを嫌いにならないか（実習後の調査では「子どもを嫌いになった」）」「保育者に対する憧れがなくなるか（実習後の調査では「保育者に対する憧れがなくなった」）」「(自分で)保育者に不向きだと思わないか（実習後の調査では「(自

はじめての実習に対する不安感と実際（１）～不安要素の特定を中心に～

分で）保育者に不向きだと思った」の３項目の質問を設けた。

この３つの設問については、全て、実習前よりも実習後の方が不安が解消されている結果がでている。子どもと触れ合うことの出来る実習を通して、子どもに対する親しみが増したことが確認できる。他の項目についても同様の傾向がみられる。

表6. 「自己意識」に関する不安と実習後の感想

	実習前		実習後		
子どもを嫌うこと (実習後：子どもを嫌いになった)	不安ではない	33.00%	大変ではない	83.20%	実習前 N=106 実習後 N=107
	あまり不安ではない	28.30%	あまり大変ではない	14.00%	
	どちらともいえない	17.90%	どちらともいえない	2.80%	
	やや不安	12.30%	やや大変	0.00%	
	とても不安	8.50%	とても大変	0.00%	
保育者への憧れ (実習後：保育者に対する憧れがなくなった)	不安ではない	18.90%	大変ではない	42.50%	実習前 N=106 実習後 N=106
	あまり不安ではない	15.10%	あまり大変ではない	27.40%	
	どちらともいえない	28.30%	どちらともいえない	17.90%	
	やや不安	25.50%	やや大変	9.40%	
	とても不安	12.30%	とても大変	2.80%	
不向きの実感 (実習後：(自分で)保育者に不向きだと思った)	不安ではない	7.50%	大変ではない	15.00%	実習前 N=106 実習後 N=107
	あまり不安ではない	10.40%	あまり大変ではない	27.10%	
	どちらともいえない	29.20%	どちらともいえない	34.60%	
	やや不安	34.00%	やや大変	16.80%	
	とても不安	18.90%	とても大変	6.50%	

(6) 実習中の生活・健康

実習中の生活・健康については、「実習中の身体的な疲労」「実習中の精神的な疲労」「実習中の健康の維持（怪我や病気など）」の３項目の質問を設けた。

実習中は、慣れない環境で過ごすため、心身ともに疲れること、実習記録の記入や指導案の立案、保育準備等で等睡眠時間が短くなること等もあり、体調を崩すことが懸念される。そのため、実習前には身体的疲労、精神的疲労についての不安が大きい。実習後の調査では、身体的疲労については実習前の不安と同様に大変だったという回答が多く見られるが、精神的疲労に関しては大変だったという回答の割合が低下している。

表7. 「実習中の生活・健康」に関する不安と実習後の感想

	実習前		実習後		
身体的疲労	不安ではない	3.70%	大変ではない	3.80%	実習前 N=108 実習後 N=106
	あまり不安ではない	7.40%	あまり大変ではない	11.30%	
	どちらともいえない	13.00%	どちらともいえない	7.50%	
	やや不安	35.20%	やや大変	48.10%	
	とても不安	40.70%	とても大変	29.20%	
精神的疲労	不安ではない	1.90%	大変ではない	6.60%	実習前 N=108 実習後 N=106
	あまり不安ではない	5.60%	あまり大変ではない	20.80%	
	どちらともいえない	12.00%	どちらともいえない	15.10%	
	やや不安	33.30%	やや大変	32.10%	
	とても不安	47.20%	とても大変	25.50%	

	実習前		実習後		実習前 N=108 実習後 N=106
	健康の維持	不安ではない	10.20%	大変ではない	
	あまり不安ではない	16.70%	あまり大変ではない	23.60%	
	どちらともいえない	19.40%	どちらともいえない	22.60%	
	やや不安	23.10%	やや大変	34.00%	
	とても不安	30.60%	とても大変	6.60%	

5. 実習前の不安感と実習後の感想との変化量

表8は、実習前と実習後に同一項目に対して、それぞれ「不安に思うかどうか」「大変だったかどうか」という問いに対する回答の変化量に着目したものである。

各項目について、実習前の質問では、「不安に思うかどうか」について、「全くそう思わない」を1、「あまりそう思わない」を2、「ふつう」を3、「ややそう思う」を4、「とてもそう思う」を5、とし、実習後の質問でも同様に、「大変だったかどうか」について、「全くそう思わない」を1、「あまりそう思わない」を2、「ふつう」を3、「ややそう思う」を4、「とてもそう思う」を5とした。実習前・実習後の同項目間の回答の「差」を変化量とみなし、調査対象学生一人一人の「差」を平均したものを「平均値」としている。

つまり、この「平均値」の値が高まるほど、実習前に不安に思っていたことが、実習後に大変ではなかったと感じていたということになる。たとえば、「職員との関係」や「保護者との関係」がこれにあたる。職員との関係は、実習生によって回答傾向に差が生じた項目であったが、実習開始前の不安の大きさに比して実際にはそれほど大変ではなかったというのが現状のようである。保護者との関係については、大学の授業等で子育て支援の重要性と難しさを学んでいるため、大変であろうという予測をし、不安感が大きかったが、実際には1回生の「はじめての実習」では保護者とのかかわりは少ないために、大変ではなかったと感じたのであろう。

逆に平均値の値がマイナスとなっている「実習記録」「運動」「絵本・紙芝居」といった項目は、実習前に考えていたよりも大変だったと感じている項目であると言える。実習記録については、事前に「実習記録の書き方」の学習はしているものの、実習期間中、毎日大量の文章を書かなければならないこと、朝から晩までの気力体力を使う実習をした後で長時間、実習記録の作成に時間が割かれること、誤字脱字表現等に気を使う文章を書かなければならない点等が学生にとっては非常に負担が大きく感じられるようである。「絵本・紙芝居」等も大学での練習とは異なり、緊張したり、子ども達の予想外の反応への対応といったことが難しいという声が座談会において聞かれた。

表8. 不安・大変に感じたことの変化量

	平均値	標準偏差	最大値	最小値
子どもとの関係	0.89	1.51	4	-3
職員との関係	1.44	1.49	4	-2
保護者との関係	1.83	1.27	4	-1
実習生同士の関係	0.88	1.28	4	-2
言葉遣い	0.21	1.3	4	-3
立ち居振る舞い	0.38	1.45	4	-3

はじめての実習に対する不安感と実際（1）～不安要素の特定を中心に～

	平均値	標準偏差	最大値	最小値
身だしなみ	0.31	1.31	4	-4
遅刻	0.48	1.51	4	-4
挨拶	0.55	1.48	4	-4
子どもとの関わり	0.81	1.44	4	-3
子どもと遊ぶ	0.38	1.51	4	-4
子どもへの指導	0.3	1.27	4	-3
子どもを叱る	0.25	1.16	4	-4
安全を守る	0.22	1.23	4	-3
言葉掛け	0.32	1.54	4	-3
発達段階理解	0.18	1.22	4	-3
発達にあわせた接し方	0.2	1.13	4	-3
実習記録	-0.14	0.88	4	-3
指導案	0.38	1.05	4	-3
ピアノ	0.49	1.31	4	-4
制作	0.41	1.5	4	-4
運動	-0.07	1.32	3	-3
絵本・紙芝居	-0.14	1.38	3	-3
手遊び	0.03	1.46	4	-3
幼稚園の意義	0.25	1.23	4	-3
保育者の職務	0.13	1.18	3	-4
実習園の評価	0.44	1.09	4	-2
大学の評価	0.32	1.16	4	-4
子どもを嫌うこと	1.13	1.29	4	-1
保育者への憧れ	0.92	1.57	4	-3
不向きの実感	0.74	1.35	4	-3
身体的疲労	0.14	1.4	4	-3
精神的疲労	0.7	1.3	4	-2
健康の維持	0.51	1.48	4	-3

6. 不安・大変に感じたことの変化量と実習の感想の相関

表9は、実習前の不安感と実習後の感想との変化量と、「保育者志向の変化（実習前の7月と実習後の9月）」と、実習に対する感想である5つの設問（「実習に真剣に取り組みましたか」「実習がうまくいったと思いますか」「実習は楽しかったですか」「実習は大変でしたか」「実習をして良かったと思いますか」）との相関を示したものである。

保育者志向についてみるならば、「職員との関係」「挨拶」「子どもを叱る」「安全を守る」「子どもを嫌いになること」「保育者への憧れがなくなること」「精神的な疲労」等が実習前に持っていた不安の大きさに比べて、実習後の感想では大変ではなかったと感じた（プラスに変化した）人ほど、保育者志向も実習前の7月に比べて実習後の9月の方が高くなっている。指導案やピアノといった項目の変化量は保育者志向には影響がないことがわかる。

次に実習の感想についてみるならば、「実習が楽しかった」と強く感じる人は、「職員との関係」「挨拶」「精神的疲労」等が思っていたよりも大変ではなかったと感じたり、保育者への憧れがなることもなく、自分が保育者に不向きであるとも感じず実習を終えたことがわかる。

逆に「実習が大変だった」と強く感じる人は、子どもや職員との関係といった人間関係

面と、実習生としての基本的なマナーの一つである「遅刻」に関することが予想以上に大変であったと感じており、幼稚園の意義や保育者の職務についても思っていたよりも理解できなかったようである。そして何よりも、身体的疲労、精神的疲労、健康の維持という、実習中の生活・健康面に関する質問項目の全てにおいて、実習前に予想していた以上に大変だったと感じていたことがわかる。

表9. 不安・大変に感じたことの変化量と実習の感想の相関

	保育者志望 の変化(7-9)	実習への取 り組み	実習がうま くいったか	実習は楽し かったか	実習は大変 だったか	実習をして 良かったか
子どもとの関係	-0.109	0.034	0.135	0.056	.191(*)	0.004
職員との関係	-.314(**)	-0.122	-0.081	-.241(*)	.239(*)	-.223(*)
保護者との関係	-0.096	-0.151	0.037	0.029	0.044	0.093
実習生同士の関係	-0.112	-0.09	-0.037	-0.107	0.131	-0.086
言葉遣い	-0.074	-0.039	-0.052	-0.117	0.121	-0.086
立ち居振る舞い	-.215(*)	0.03	-0.013	-0.067	0.179	-0.062
身だしなみ	0.099	0.134	0.145	.233(*)	-0.119	.246(*)
遅刻	-0.164	0.159	0.071	-0.019	.254(**)	0.001
挨拶	-.294(**)	-0.023	-0.005	-.197(*)	0.109	-0.134
子どもとの関わり	-.223(*)	0.009	-0.126	-0.039	.248(*)	-0.123
子どもと遊ぶ	-0.139	0.078	0.003	-0.02	.300(**)	0.001
子どもへの指導	-0.145	0.161	-0.06	0.004	.560(**)	-0.016
子どもを叱る	-.262(**)	0.026	0.07	0.085	0.172	-0.1
安全を守る	-.270(**)	0.075	0.098	-0.055	0.111	-0.093
言葉掛け	-.206(*)	-0.034	0.06	0.016	0.165	-0.014
発達段階理解	-.218(*)	-0.047	0.089	0.143	0.122	0.01
発達にあわせた接し方	-0.174	-0.04	.287(**)	0.09	0.173	0.018
実習記録	-0.185	-0.038	-0.01	0.01	.294(**)	-0.078
指導案	0.042	-0.069	-0.16	0.014	-0.058	-0.015
ピアノ	0.09	-0.092	0.065	0.092	-0.008	0.199
制作	-0.13	0.073	-0.065	-0.07	.285(**)	-0.114
運動	-.201(*)	0.023	.200(*)	0.089	0.121	0.076
絵本・紙芝居	-0.113	.193(*)	0.028	.207(*)	0.156	0.161
手遊び	-0.126	0.162	0.078	0.142	0.155	0.12
幼稚園の意義	-.247(*)	0.009	-0.106	-0.047	.368(**)	-0.037
保育者の職務	-0.138	0.056	-0.104	-0.042	.249(*)	0.011
実習園の評価	-0.107	0.026	-0.18	-0.082	.205(*)	-0.137
大学の評価	-0.014	-0.04	-0.118	0.008	0.033	-0.084
子どもを嫌うこと	-.279(**)	-0.145	-0.017	0.001	0.111	-0.098
保育者への憧れ	-.389(**)	-0.124	-0.077	-.288(**)	.216(*)	-.317(**)
不向きの実感	-.387(**)	-0.157	-0.142	-.233(*)	0.114	-.387(**)
身体的疲労	-0.171	-0.03	-0.088	-0.146	.366(**)	-0.181
精神的疲労	-.278(**)	-0.062	-0.144	-.286(**)	.364(**)	-.281(**)
健康の維持	-.215(*)	-.212(*)	-0.126	-0.136	.284(**)	-0.157

* p<.05 ** p<.01

おわりに

本調査では、学生がはじめて経験する実習である幼稚園教育実習の前と後に質問紙調査を実施し、実習前に抱いた不安感と、実際に実習を経験した後の感想を比較検討した。そ

の結果、今後の教育・指導に役立つべき要点が明らかになった。

ほとんどの学生が保育者に関係する免許・資格の取得を目的として入学し、保育者を志望しており、前期の事前指導の授業にも熱心に取り組んでいた。はじめての実習に対し不安感を抱いていたが、幼稚園実習に真剣に取り組んで、実習後にはうまくいったという実感を持っていたことがわかった。

さらに実習前後の回答を詳細に検討すると、事前に不安感が強かった「(実習園の)職員との関係」「保護者との関係」については、実習終了後にはそれ程大変ではなかったと感じており、「子どもを嫌いにならないか」「保育者への憧れがなくなるか」「保育者として不向きだと思わないか」という不安も解消していた。しかし、「こどもの安全を守る」「発達段階に応じた保育を行う」など、より専門性の高い内容の項目や「身体的な疲労」などでは、事前の不安感も強く、実習を体験した後でも大変だったと感じている学生が多かった。「記録」「運動」「絵本・紙芝居」では、事前の不安は少なかったが、実習後には予測より大変だったと回答していた。

「職員との関係」「挨拶」「子どもを叱る」「安全を守る」「子どもを嫌いになること」「保育者への憧れがなくなること」「精神的な疲労」等の項目で、実習前の不安感は強かったが実習後にはそれ程大変でなかったと感じた人は、実習後に、保育者を志向する度合いが高まっていた。実習が楽しかった人は、「職業との関係」「挨拶」「精神的な疲労」などの項目で実習前の不安感に比べ大変でなかったと感じており、保育者に対する憧れがなくなることもなく、不向きと思うこともないという結果が出た。

したがって、多くの学生がはじめての実習に際し指導者である実習園の職員との関係、実習生としてのマナーとして徹底されるべき挨拶をきちんと出来るかどうかなどに不安を覚えると思われるが、学生の精神的疲労が増大しないよう、事前指導および実習中の対応において十分な精神的なサポートを実施することによって、楽しいと実感できる実習が実現し、保育者志望の度合いも増大すると考えられる。

しかし、実習が大変だったと強く感じた学生は、子どもとの関わりや職員との関係、基本的なマナーが予測以上に大変だったと感じていた。また記録や製作も予想より大変だったと感じ、幼稚園の意義・保育者の職務の理解も難しく、身体的疲労・精神的疲労・健康の維持も思ったよりも大変だったと回答していた。

このような多くの項目で予測より大変だったと感じる学生への対応として、実習前に、記録および製作について不安感や負担感なく実施できるようトレーニングしておくことや、円滑な人間関係構築に関わるコミュニケーションスキルについての学びを深めておくことが重要である。また子どもや大人など、自分達と同年齢以外の人と接する機会をできるだけ持つように指導することも有効であると思われる。それらによって、身体的、精神的に疲労することなく、実習できると考えられる。

保育者になることを目指し、希望を抱いて入学した学生が、過度の不安感や負担感を抱くことなく、はじめての実習を有意義で楽しいものと感じられるよう、今回の調査結果を踏まえて具体的に援助していくとともに、実習に関する多様な側面をさらに詳細に検討していくことが肝要であると考えられる。

注

- 1) 藪中征代他「幼稚園実習に関する学生の意識調査—実習不安の変化」、『聖徳の教える技法』Vol.4、聖徳大学、2009年。
- 2) 大平泰子・開仁志「幼稚園教育生への指導のあり方に関する一考察—実習生の不安や悩みを中心に」、『富山短期大学紀要』Vol.44、2009年。
- 3) 吉田康成・中田尚美「実習不安の内容と変化(1)」『保育研究』Vol.36、平安女学院大学短期大学部保育科保育研究会、2008年。
- 4) 城越幸一・豊田典子「保育実習の充実を目指した事前指導のあり方—実習未経験者と経験者における実習に対する不安の差異」、『大阪薫英女子短期大学児童教育学科研究誌』、2006年。
- 5) 鈴木香奈恵他「幼稚園教育実習に関する研究(1) 実習前の不安感について」、『埼玉純真女子短期大学研究紀要』、2005年。
- 6) 田中千恵・高橋紀代香「初めての实習における保育援助について」、『児童教育学研究』Vol.26、神戸親和女子大学児童教育学会、2007年。
- 7) 学生が幼稚園からの実習受け入れの内諾を得た上で、後日、大学側から正式な実習依頼を行っている。
- 8) 「評価」に関する質問項目については、実習前・後のどちらにおいても「不安かどうか」を問う形式を用いた。

引用・参考文献

- 1) 藪中征代他「幼稚園実習に関する学生の意識調査—実習不安の変化」、『聖徳の教える技法』Vol.4、聖徳大学、2009年。
- 2) 大平泰子・開仁志「幼稚園教育生への指導のあり方に関する一考察—実習生の不安や悩みを中心に」、『富山短期大学紀要』Vol.44、2009年。
- 3) 吉田康成・中田尚美「実習不安の内容と変化(1)」『保育研究』Vol.36、平安女学院大学短期大学部保育科保育研究会、2008年。
- 4) 城越幸一・豊田典子「保育実習の充実を目指した事前指導のあり方—実習未経験者と経験者における実習に対する不安の差異」、『大阪薫英女子短期大学児童教育学科研究誌』、2006年。
- 5) 鈴木香奈恵他「幼稚園教育実習に関する研究(1) 実習前の不安感について」、『埼玉純真女子短期大学研究紀要』、2005年。
- 6) 田中千恵・高橋紀代香「初めての实習における保育援助について」、『児童教育学研究』Vol.26、神戸親和女子大学児童教育学会、2007年。
- 7) 田村修一「教育実習における適応に影響を与える要因の検討—幼稚園教諭を志望する大学生に焦点をあてて」、『郡山女子大学紀要』Vol.46、2010年。
- 8) 谷直子・高橋裕子「幼稚園教育実習実態調査」、『東京家政大学紀要』Vol.48、2008年。
- 9) 濱田尚吾・太田裕子「短大生の幼稚園教育実習における事前指導の役割」、『羽陽学園短期大学紀要』Vol.8、2010年。